

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	一橋大学	整理番号	1-5-031
応募テーマ	主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	人間環境キーステーションとまちづくり授業		
申請単位	大学全体		
申請担当者	林 大樹		
<p>(取組の概要)</p> <p>「人間環境キーステーションとまちづくり授業」の取組</p> <p>「まちづくり」授業は、学部学生全員が履修可能な授業科目として 2002 年 4 月に開講された。地域の課題についてのプロジェクト活動を中核とし、教育環境、商店街活性化、ゴミ・環境対策、緑化、バリアフリー、国際交流・異文化理解、地域通貨など多彩なテーマに取り組んでいる。また、「人間環境キーステーション」構想にもとづき、空き店舗を活用した地域活動拠点を 2003 年 7 月に開設した。同拠点は商店会、行政、市民などと大学が協働するための組織を持つが、NPO 法人化準備中である組織の理事会と事務局の両方で学生は大きな役割を分担している。学生は次々と生起する現実問題の渦中で自我関与の高い「現場生成型」学習を通じて、実践的な知識・能力を獲得しつつあり、本取組は本学教育目標の一つである「市民的公共性と国際性を備えた専門人や政治経済社会のリーダーの育成」に有効な授業モデルとなっている。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、一橋大学の教育目標である「教養ある市民、市民的公共性と国際性を備えた専門人や政治経済社会のリーダー育成」を達成するために、新しい教育の取り組みとして学生、大学、地域のコラボレーションを地域から始めようという試みです。</p> <p>このため、大学授業「まちづくり」と「くにたち富士見台人間環境キーステーション (KF)」の 2 つの仕組みから「人間環境キーステーション構想」を推進しています。</p> <p>学生主体でプロジェクトをすでに 10 本以上立ち上げ、地域課題を解決する方式で特色があります。プロジェクトがモデルになり次々生まれるならばこの取組は他大学の参考になる事例と言えます。</p> <p>この取組は、学生、大学、地域の評価の確立、大学授業へのフィードバック、全学対象にも関わらず学生参加が少ないなどの課題がありますがこれを克服すれば更なる発展が期待されます。</p>			

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	岐阜大学	整理番号	1-5-048
応募テーマ	主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	地域・大学共生型教師教育システム		
申請単位	学部単位		
申請担当者	古田 善伯		
<p>(取組の概要)</p> <p>本システムは、平成7年度から教育学部と岐阜県教育界と連携して進めてきた3つの取組を総称して示している。すなわち、①地域共生型教員研修プログラム：岐阜県教育委員会と連携して教員の6年目研修及び12年目研修の一部を本学部において実施している取組、②アウトリーチ型遠隔教育プログラム：双方向のテレビ会議システムによる現職教員を対象とした夜間遠隔大学院及び免許法認定公開講座を地域のニーズに応じて展開している取組、③ACTプラン（行動的連携による教員養成）：岐阜市教育委員会と連携して学校現場（小・中学校）と大学との往復的な実践教育を進めている取組である。これら3つの取組は、教育学部と岐阜県教育界との連携基盤（岐阜県教育委員会から客員教授の受入、連携協力に関する覚書、連携協力協議会の設置等）を構築しながら進めてきており、この基盤形成が3つの取組を組織的に推進させるための基本と考えている。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>教員系大学・大学院により申請されたプログラムは、いずれも似たりよったりであり新鮮みがないが、この取組は以下の点から高く評価されます。(1) 教育委員会や高校等と連携し、現職教員の能力向上を目的としたリカレント教育という時代の要請に応えていること。(2) 6年目研修、12年目研修といった難しい研修にチャレンジし、理論と実践を結ぶ場として成果を上げていること。(3) ITを活用する遠隔教育を、この概念が定着する以前から実施しており新規性がみられること。(4) 遠隔教育を用いて、京都、沖縄、高知、新潟等々の他の地域との連携していること。(5) 参加する学生数、受講生数が増加しており発展性があること。この取組のような活動は、今後の教員養成系大学、大学院にとって必ずや必須のものとなりますが、岐阜大学はこれを先取りし、他の大学・大学院の先例となるものであります。強いて問題点を挙げるとすると、本取組が同大学の学部学生に対して教育面でどのようなフィードバック効果を与えているか、明確でないように思われます。この点に関しヒアリングでは、遠隔教育で得られた「ブラックボード」というITによる学習支援システムが全学に広がったことが挙げられましたが、学部学生への教育面での影響について</p>			

て分析され、それについて言及されると、それだけ他校に対する模範例となると思われます。日本の遠隔教育は欧米に対して遅れをとっていますが、広大な県域と多くの過疎地をもつ岐阜県での取組が、今後の日本の遠隔教育をリードされることを期待します。

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
ヒアリング実施校の取組概要

大学・短期大学名	長崎大学	整理番号	1-5-056
応募テーマ	主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	地域と連携した実践型医学教育プログラム ～現代版「赤ひげ」の育成を目指した長崎県五島列島における包括的保健・全人的医療教育の実践～		
申請単位	学部単位		
申請担当者	兼松 隆之		
<p>(取組の概要)</p> <p>医学部 5 年次全学生を対象として、長崎県の特徴である離島をフィールドとした、1 週間の「離島実習」を必修カリキュラムとして行う。本医学部では、病める人と良好なコミュニケーションができ、病気を診るだけでなく病める人の心とおかれている環境を洞察しつつ（全人的医療）、病気を治療するだけでなく医療チームや家族と力を合わせ、患者の家庭・社会への復帰や社会の偏見を克服して患者の社会参加を真摯に目指す（包括的保健）医師を育成することを教育理念としている。これを実践できる医師こそ 21 世紀に求められる医療人であり、人間味あふれた現代版“赤ひげ医師”とも言える。本取組は、本医学部の教育理念に基づいた実践型臨床実習であるとともに、地域（離島）医療に貢献できる医療人の育成ステップという点で特色的なものである。離島実習を通して現代版“赤ひげ医師”を育成することが、本取組の目的である。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、長崎大学医学部の教育目標である「全人的医療」と「包括的保健」を実践出来る医師育成の為に、離島における医療体験等、学外の医療・福祉施設での実習を含めた教育課程であります。この取組の発端は昭和 55 年に始まる長崎県下の 10 島で学生が自主的に設定したテーマで行って来た多岐に亘る、臨床医学的、社会医学的実習で、参加学性は 20 年間に 300 人（15%）に及びます。今、医療過疎地帯と言われる県下離島で活動する医師の 50%以上が本学の卒業者であることは、この体験実習の成果であるとも言えるかもしれません。地域的特性を生かした、特色ある教育の取組と評価されます。</p> <p>これらの経験を生かして、今、離島医療実習・地域保険実習が組織的に始まりました。さらに、看護・保健学、歯学、薬学教育にも拡大する構想を持っておられます。大学を挙げての取組であり、県との連携も強固なものが見受けられます。教育を担当する寄附講座も開設されました。</p> <p>良医養成を医学教育の中心に据えている大学が多い時に、本学の取組は他の参考となるものと考えられますので、更に、本計画を実行・発展されて、成果を出されるよう期待しております。</p>			

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	共立薬科大学	整理番号	1-5-030
応募テーマ	主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	医療人育成のための生涯学習支援システム		
申請単位	大学全体		
申請担当者	中島 恵美		
<p>(取組の概要)</p> <p>本取組は、薬学教育 6 年制への移行を控え、生命を預かる医療人として生涯に渡って必要な高度教育を、地域社会と連携して支援するシステムである。</p> <p>昭和 43 年の同窓会卒業教育研修会を発端とし、通信講座開講を経て、平成 10 年国内初となる薬科大学生涯学習センターを発足させた。国内唯一の薬剤師通信講座を擁し、薬学教育の多面に亘る内容の公開講座をはじめ、社会人も受講できる夜間大学院の開講を実践している。その内容は、数々の公的認定を受け、6,500 名を超えるセンター受講生を輩出し、生涯学習支援を成功裡に行っている。更に、大学内附属薬局を利用し、学部学生教育、地域・社会との連携も行う「学びたい人すべてに対する生涯学習支援システム」である。</p> <p>薬剤師卒業教育の日本におけるパイオニアとして 36 年間に渡って取組んできた医療薬学教育に、海外との学術交流提携の実績を加え継続的に発展させたポスト 6 年制生涯学習支援システムのグローバルスタンダードモデルを目指す。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、生命をあずかる医療人にとって、生涯学習は必須のものであることから、ライフスパンに必要な薬剤師の生涯学習の基盤づくりやその支援システムの構築を目指し、大きな成果を上げているものであります。</p> <p>薬剤師生涯学習教育制度の実施、昼夜開講大学院の地域と密着した公開講座、附属薬局を利用した学生教育など他大学に参考となるものであります。</p> <p>これまでに多くの教育研究特別補助の対象として採択されていることは、その成果が認められたものでありましょう。</p> <p>それぞれの活動を有機的に連携させ、生涯学習の支援システムの構築を目指し、更なる発展が期待されます。</p>			

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	工学院大学	整理番号	1-5-033
応募テーマ	主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	理科教室の展開と支援学生への教育波及効果－地域貢献活動を通じての学生のデザイン能力等の育成を目指した工学教育の実践－		
申請単位	大学全体		
申請担当者	木村 雄二		
<p>(取組の概要)</p> <p>工学院大学は平成 6 年度から 10 年間にわたって全学的な取り組みとして、地域の小中学生を対象に「大学の先生と楽しむ理科教室」を毎年 8 月に開催している。この「理科教室」は子供たちに対する理科啓発、学生の人間性の涵養、そして多摩地域の教育振興に寄与している。毎年約 60 に及ぶ演示テーマを設定し、約 80 名の演示担当教員、約 400 名の支援参加学生、約 190 名の事務職員の協力体制の下、2 日間で約 7,000 名の小中学生とその父母が参加している。</p> <p>支援参加学生達は、演示テーマの模索・立案・具体化そして実施を経る中で、グローバルエンジニアに必要なコミュニケーション能力、デザイン能力及びプロデュース能力等を獲得し、科学に携わる者としての優しさや社会性を身につける場となっている。</p> <p>今後も継続的に展開し、理科教室の常設化を図るとともに、カリキュラム及びキャリア支援プログラム等にも積極的に取り入れ、教育改善を推進していく。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>大学の先生と楽しむ理科教室と題するプログラムは、平成 6 年以降教員・大学院生・学部学生が一体となって小中学生を対象に夏休みの終わりに開催されているものです。目的は青少年が理科・科学に魅力を持つように、分かりやすい科学の原理、不思議な科学現象、面白い実験、楽しい理科遊びなどを紹介し、理科好きの若者を育てようというものです。</p> <p>一方、担当者の大学院生をはじめとし、学部学生もテーマの設定から具体的な手順、問題解決を自身で行うことにより、デザイン能力、問題解決能力、コミュニケーション能力などを学生自身にも身につけさせることを意図したものです。</p> <p>この理科教室は毎年 60 におよぶ演示テーマを設定し、約 40 名の演示担当教員、約 400 名の学生のスタッフに対して、参加者 7,000 名です。10 回の参加者は延べ 6 万人以上にのぼっています。学生・教員・地域住民の成長を期待したものであり、組織化・運営など非常に優れた取組となっています。</p> <p>このような取組に対して学生が身につける付加価値をどのような指標を用い</p>			

て測定するか、測定結果に対してどのような評価を与えるかなどの将来計画が明確になっていれば、更なる効果が期待できます。

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	女子美術大学	整理番号	1-5-008
応募テーマ	主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	美大におけるサービス・ラーニングの実践 ーアートを通じた大学と医療・福祉施設との連携		
申請単位	大学全体		
申請担当者	横山 勝樹		
<p>(取組の概要)</p> <p>新しい世紀を迎え、女子美術大学は美術・デザインにおける専門教育の継続と同時に、分野を横断する実践的教育を新たに加えることで、「芸術の力が人間力を高める」という教育理念の実現を目指している。この取組では、12 年前より医療・福祉施設などに壁画を設置する活動を開始し、現在 26 箇所の実績を有する。しかし単に絵を寄贈して喜んでもらうということではなく、大学と社会との連携を重視し、その社会的意義を学生自身に考えさせるサービス・ラーニングとしての位置付けを重視している。従って実施においては、計画書に基づいて全学一体となった組織的対応を行い、正課と有機的連携がとれるように図っている。また学習成果を学生が発表し、学外からの評価を直接受けることも取組の中の重要なプロセスとしている。学生達にとっては、共同の創作を通して専門分野毎に異なる方法論や感性を教え合い、日常の創作にも応用できる新しい気づきや発見のある学習活動となっている。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、女子美術大学が建学当初から意を注いできたことのひとつである「弱者の心を癒す役割を担うものとしての美術作品の制作」を、美術・デザイン分野においても近年より重要となってきた「他分野の人々と連携」という視点から、教育課程に顕在化させたもので、その中核である「癒しの壁画プロジェクト」(医療・福祉施設に癒しの壁画を制作するプロジェクト)は 1992 年の開始以来、実績を積み重ねてきています。</p> <p>現在、学生が社会の現実をみずから認識・実感し、それぞれの知識と技能を生かして「地域社会との連携」のかたちで社会に貢献する活動を教育課程の中でもおこなうことがますます重要となっており、女子美術大学のこの取組は他の大学、短期大学の参考になりうるひとつの優れた事例であると言えます。</p> <p>美術と癒しとの関係についての研究を、制作からのフィードバックも生かして、深め、この取組がより有意義に展開することが期待されます。</p>			

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	大阪産業大学	整理番号	1-5-007
応募テーマ	主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	大学と地域で築く 21 世紀型ひとづくり共・育 東大阪中小企業ものづくりネットワークと連携した アントレプレナー型エンジニア育成		
申請単位	学部単位		
申請担当者	松本 裕		
<p>(取組の概要)</p> <p>大学と地域が、「ものづくり」に関して連携し、21 世紀に必要な独自性あふれる「ひとづくり」を行い「共」に「育」つこと、これが本取組の目的である。</p> <p>取組の背景には、日本の産業の空洞化と学生の「ものづくり」に関する実体験不足への対応の必要性があった。そこで、「社会基盤を支える人材養成」を目指し「実学教育」に取組んできた産業大学の教育理念と本学が立地する大阪東部（中小製造業の一大集積地）の特性を掛け合わせ、地域ネットワークの強みを生かし独自性に富んだ創造を行い得る「アントレプレナー型エンジニア」の育成が開始された。</p> <p>この取組を支えるため、入試段階から卒業まで「ものづくり」を基盤とする一貫した教育システムを構築している。なかでも、学長主宰の「ものづくりコンテスト」の実施、「クリエイトセンター」等施設の整備、教育の場としての「大学発ベンチャー」の起業、アントレプレナー専攻の導入、東大阪商工会議所による審査・品評、国内外ラリー参加等実践的外部評価の活用、などに大きな特色があり、大学発ベンチャーにおける学生社長の誕生やソーラーカーの世界的な活躍などの成果に結実している。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、大阪産業大学の教育目標である「地域に根ざし社会に貢献する人材育成を目指し、『実学』に根ざした基礎教育から高度教育までを統合的に実践する大学」を達成するために、組織的に実施され、「ものづくり・アイデアコンテスト」や「MONO工房」などに実証されるように大きな成果を上げています。現在、大学には、社会・経済構造、産業構造の急速な変化に対応できる特色ある教育が求められており、この取組の「東大阪中小企業ものづくりネットワークと連携したアントレプレナー型エンジニア育成」という点はこうした社会の多様な要請に充分応える優れた取組であると認められます。特に、当大学の「大学発ベンチャー」の日本での第一号が誕生したことについては先進性も見られ、今後、大学と地域で築く 21 世紀型ひとづくりが求められつつある</p>			

ことを鑑みれば、この取組は他の大学、短期大学の参考になり得る優れた事例であると言えます。

また、この取組には、学部組織が企業側とどのように協力、提携した教育プログラムが用意できるかという課題も認められますが、これを克服すれば更なる発展が期待されます。

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	大阪商業大学	整理番号	1-5-018
応募テーマ	主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	地域や高校と連携した起業教育・起業家育成		
申請単位	大学全体		
申請担当者	片山 隆男		
<p>(取組の概要)</p> <p>大阪商業大学は、「世に役立つ人物の養成」を建学の理念とし、わが国有数の中小企業の集積地である東大阪市において、数多くの起業家を輩出してきた。しかしながら、景気低迷が長引き日本経済の相対的地位の低下が懸念される昨今、経済社会においては起業家精神に溢れ、変革をリードする人材の養成に対する期待がこれまで以上に高まっている。</p> <p>こうした社会的要請に応えるべく、地域の経済界や高校との連携が不可欠との問題意識のもと、平成 10 年度より本格的な起業教育・起業家育成に取り組んできた。その特徴は、起業家精神の涵養からインキュベーション施設や出資制度による創業者支援にいたるまでのトータルな取組であり、かつ地域および高校と連携した取組となっていることである。本学における起業教育・起業家育成は、『本学学生への起業教育』を軸に、『地域と本学が連携した起業家育成』および『高校と本学が連携した起業教育』という 3 本の柱で構成されている。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、大阪商業大学の教育目標である「世に役立つ人物の養成」を達成するために組織的に実施され、「大阪商業大学ビジネス・パイオニアコース」の設置や「大商大ビジネス・アイデアコンテスト」などに実証されるように大きな成果を上げています。</p> <p>現在、大学には、社会・経済構造、産業構造の急速な変化に対応できる特色ある教育が求められており、この取組の「地域や高校生と連携した起業教育・教育家育成」は、こうした社会の多様な要請に応える優れた取組であると認められます。特に、東大阪地域の地元企業との連携は組織化されてきており、インキュベーション施設を持つ点などについて先進性が見られます。今後大学に、地域産業、高等学校との連携の工夫が求められることを鑑みれば、この取組は他の大学、短期大学の参考になる優れた事例であると言えます。</p> <p>また、この取組には、起業教育の土台となる専門科目などの教育を総合的・実践的な学修として、どのように工夫していくかという課題も認められますが、これを克服すれば更なる発展が期待されます。</p>			

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	新見公立短期大学	整理番号	2-5-026
応募テーマ	主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	地域と創る「にいみこどもフェスタ」		
申請単位	学科単位		
申請担当者	片山 啓子		
<p>(取組の概要)</p> <p>「にいみこどもフェスタ」は、全国初、唯一の広域事務組合立として地域により設立された新見公立短期大学と、その主たる設置母体である新見市の公立ホール「まなび広場にいみ」とが共同開催している幼児教育学科の表現発表会である。</p> <p>この取組の大きな特色は、ホールが地域文化への寄与及び青少年の健全育成を目的とする自主企画事業として主催し会場を提供、本学幼児教育学科が作品構成や舞台演出を担当する共催の形で連携して開催していることである。また、平成 16 年度で第 14 回を迎えるこの発表会は、当地域の定期公演としては最大の観客動員数を誇り、その舞台構成や表現技術に対する来場者からの高い評価も大きな特色である。</p> <p>「にいみこどもフェスタ」は、子どもたちにできるだけ質の高い舞台を提供することにより地域への貢献となり、学生にとっては、表現力はもちろんのこと、保育者としての様々な資質を育成することのできる非常に教育効果の高い取組となっている。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、新見公立短期大学の基本理念である「誠実、夢、愛」をもとに幼児教育学科全学生が各々の役割を持って参加する表現発表会として、14 年間にわたって実施されている取組です。</p> <p>この取組は、実施プログラムの内容等についてすべてオリジナリティにこだわり、教育と地域貢献をとおして学生のモチベーションや学習内容の向上を図っており、他大学にみられない特色も認められます。幼児教育・保育系の短期大学では同種の取組が見られますが、この取組はレベルが高く、新見市公立ホールの定期公演としては最大の観客を集め、市内のほとんどの幼児が参加しているなど、地域から大きく支持されています。また、公演の中で「メディア媒体の活用」していることは、IT 社会の中で、幼児教育を専門とする学生に必要な技術を学ばせるといっても優れた取組であり、他の短期大学の参考になり得る優れた事例であるといえます。</p> <p>今後は、ビデオオンデマンドによる配信や公演録画ビデオの活用や巡回公演を行うなど、より多くの幼児が公演を鑑賞できるよう、さらなる努力と工夫を重ねられることを期待します。</p>			

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	大分県立芸術文化短期大学	整理番号	2-5-013
応募テーマ	主として、大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	多様な演奏会による地域交流教育の工夫改善		
申請単位	学科単位		
申請担当者	宮本 修		
<p>(取組の概要)</p> <p>本学音楽科は、多様な地域演奏会を企画し、各市町村と交流を深めながら教育活動に取り組んできた。その内容は、「地域巡回演奏会（年 2～3 回）」「若さあふれるコンサート（年 6 回）」「地域文化祭（上野の森アートフェスティバル）への参加」である。とくに地域巡回演奏会は昭和 61 年に開始。これまで延べ 38 市町村を訪問し、県内をほぼ一巡した。この演奏会は小中学生を対象としており、子供たちの希望を取り入れながら曲目を選定したり、受け入れ校の校歌と一緒に歌うなどの工夫を行っている。「若さあふれるコンサート」では、曲目やアンサンブルなどに多様性を持たせ、学生の個性が発揮できるように配慮しつつ、一般県民に音楽鑑賞の機会を提供している。さらに学生たちは近年、「地域文化祭」に参加し、地元住民と演奏を通して交流するようになった。</p> <p>以上の取組を通して、学生たちは、音楽が豊かな感情表現であり、観客とともに味わうものであることを深く認識するようになった。また、演奏会を支えるスタッフ（裏方）の大切さに気づくなど、学生の人間的成長にとって大きな効果をもたらしている。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、大分県立芸術文化短期大学の教育目標である「芸術の創造・文化の進展及び地域社会の発展に寄与する」を達成するために、既に 18 年以上にわたって組織的に実施され、地域巡回演奏会や若さあふれるコンサートに実証されるように大きな成果を上げています。</p> <p>現在、大学、短期大学には、地域・社会との連携に対応できる特色ある教育が求められており、この取組の豊かな教養と優秀な技能を兼ね備えた音楽家を育てる地域交流教育はこうした社会の多様な要請に十分応える優れた取組であると認められます。特に、農山漁村での演奏会による地域振興については歴史の重みとともに先進性も見られ、今後、短期大学の地域貢献が求められつつあることを鑑みれば、この取組は他の短期大学の参考になり得る優れた事例であると言えます。</p> <p>また、この取組には、評価の充実という課題も認められますが、これを克服すれば更なる発展が期待されます。</p>			

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	上智短期大学	整理番号	2-5-005
応募テーマ	主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	地域の外国籍市民への学習支援活動の推進 －学生主体の家庭教師ボランティアの展開モデル－		
申請単位	短期大学全体		
申請担当者	羽場 勝子		
<p>(取組の概要)</p> <p>本取組は、1988 年 5 月、地域の NGO による「難民支援」のための日本語教室に参加した学生有志 10 名の発案でスタートした。爾来 16 年間、近隣の行政、地域の NGO 等と連絡・連携を取り合い、地域の外国籍市民の学習支援活動を担ってきた。本取組は、地域に根ざした長年の活動であり、大学と地域社会の連携の展開モデルであり、本学の教育理念を体現する草の根的实践活動である。</p> <p>本学の位置する神奈川県秦野市周辺には、外国籍市民が多く居住しているが、言語や文化の壁に遮られ日本社会の中で孤立しがちである。このような状況下で、学生ボランティアは、外国籍市民の子供に日本語、英語、他の教科の学習支援を行うとともに、異文化の中で戸惑う家族の相談相手として多面的に活動している。これまで 930 名の学生がかかわり、対象となった外国籍市民は 635 名。現在、全学生の 20 パーセント以上が自主的に参加する本学最大の課外活動である。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、外国人労働者などが働く神奈川県秦野市に所在の上智短大の地域貢献活動です。キリスト教ヒューマニズム、国際性、言語教育の 3 点を教育理念とする上智短大にとって、この取組は実に相応しいと思われれます。</p> <p>現在、多くの外国籍市民は、慣れない外国で生活するなか様々な困難に遭遇して、特に子弟の教育は言語障壁もあり、成人にあっては企業内教育も不十分で、家庭教師ボランティアによる学習支援が強く求められます。上智短大は、当初学生個々人の発意によって始まった「難民支援」を、学生直属組織・キャンパスミニストリーをセンターとして教員・学生・OB OG の参加によって「地域内外国籍市民への学習支援・交流支援」を 15 年間にわたり継続し、その間係った学生総数 890 名、サポートされた外国籍市民は 125 世帯、215 名に及びます。携わった学生らの人間的成長、ヒューマニズムの深化が認められ、教育上の効果も極めて大きいです。将来展望もきちんとしており、実績、効果、社会的意義のいずれからも高く評価されます。</p>			

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	久留米信愛女学院短期大学	整理番号	2-5-014
応募テーマ	主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	地方都市における地域参画型短期大学教育		
申請単位	短期大学全体		
申請担当者	関 聡		
<p>(取組の概要)</p> <p>久留米市の要請で設置された本学は、開学以来、地域と密着した短期大学教育を展開してきた。平成 4 年に「生涯学習センター」を設置し、地域のニーズに基づき様々な生涯学習プログラムを実施するとともに、高齢者支援プログラムや子育て支援プログラム、地方自治体や地場産業との連携プログラムを実施してきた。地域貢献事業と平行して本学は、学生ボランティア促進プログラムやインターンシップ、行政や市民団体との学生参画イベントの奨励など地域の教育力を組み入れた短期大学教育を行ってきた。</p> <p>平成 15 年度、本学は、より一層地域社会と結びついた教育・研究活動を展開し、教職員・学生・卒業生が協同して地域貢献活動を行い、地域の教育力と本学の教育力を統合した短期大学教育を開発するため、地域参画型短期大学を創造することを教職員全員で決議し「久留米信愛女学院短期大学 地域参画宣言」を行い、行政や地場産業及び市民と密接につながった短期大学教育を実施している。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、久留米信愛女学院短期大学が開学から使命とする「地域社会と結びつき地域社会に貢献する」を達成するために、既に 12 年以上にわたって組織的に実施され、生涯学習センターやオープンカレッジに実証されるように大きな成果をあげています。</p> <p>現在、大学、短期大学には、地域・社会との連携に対応できる特色ある教育が求められており、この取組の「教職員と学生が主体的に取り組む地域共生的活動」という点はこうした社会の多様な要請に十分応える優れた取組であると認められます。特に、平成 4 年からの取組を平成 15 年度に改革し、地域参画推進室と地域参画推進センターへの名称変更や地域参画推進連絡協議会の設立、信愛コラボレーションプラザ及び地域参画宣言については先進性も見られ、今後、国民のボランティア精神の涵養が求められつつあることを鑑みれば、この取組は他の短期大学の参考になり得る優れた事例であると言えます。</p>			